

2 私はこうして「日本を

◆ 多様な任務



南西防衛の要となる部隊での勤務

戦闘訓練における部隊指揮の様子(筆者は右)

私は、2023年3月に新たに開設した石垣駐屯地(沖縄県)に所在する八重山警備隊の普通科中隊長として勤務しています。

那覇から約400km離れた八重山諸島の中心地である石垣島は、宮古島や与那国島と並び、厳しさを増す安全保障環境を最前線で感じる離島防衛の要となる島です。このため、石垣駐屯地には八重山警備隊の他にも地対空誘導弾部隊や地対艦誘導弾部隊が配置され、平素からこれらの部隊と協力してあらゆる事態に対処できるよう活動しています。



駐屯地開設時の防衛大臣儀仗(筆者は左)

おおしろ たかのり

3等陸佐 大城 孝徳

- ① 八重山警備隊普通科中隊(石垣駐屯地)
- ② 普通科

これからも、駐屯地の開設と同時に日本全国から集まった仲間たちと共に、「八重山に励みて国安らかなり」を合言葉に、国防の使命を果たせるよう日々努力していきます。

海自は、尖閣諸島を含む日本の周辺海域などにおいて24時間態勢で警戒監視を実施しており、私の護衛艦「まさなみ」乗艦後の初めての任務が、その警戒監視でした。中国艦艇などに対応することで常に緊張していたことが強く印象に残っています。

私は機関士として、艦のエンジンや電力などの状況をモニター、管理しています。さらに、任務中に監視に必要な情報を記録する必要があり、私はその記録収集の指揮を任せられました。

任務を通じて、我々が直面する厳しさを増す安全保障環境を肌で感じ、身が引き締まるとともに、国防に貢献しているという「やりがい」と「自分の成長」を強く感じました。今後も、このやりがいのある仕事に邁進し、成長していきたいと思いを。

尖閣周辺などでの警戒監視における私の任務

情報を記録する様子(筆者は右)



操縦室で勤務中の様子(筆者は手前)

にしだ さき

3等海尉 西田 沙季

- ① 護衛艦「まさなみ」(大湊)
- ② 機関士

対領空侵犯措置における心構え

F-2Aの離陸のための準備をする筆者

私はF-2戦闘機の操縦者として、対領空侵犯措置に従事しています。

対領空侵犯措置では、日本周辺を飛行する外国の航空機のうち、許可なくわが国の領空に侵入するおそれのある航空機などに対して、戦闘機などを緊急発進(スクランブル)させて対処を行います。近年は無人機への対処も行っており、緊急発進回数は年間1,000回に近い高い水準で推移しています。

パイロットはスクランブルが下令されたならば速やかに戦闘機を発進させ、領空侵犯のおそれのある航空機の状況を直接確認し、その行動を監視します。

空の現場は、国家の意思と能力が示される最前線であることを自覚し、強い責任感と緊張感をもって、厳正かつ毅然とした態度でこれからも任務に邁進していきたいと思いを。



F-2Aと筆者

みづこし みさき

- ① 第8航空団飛行群第8飛行隊(築城基地)
- ② 操縦

(注) 階級、勤務先は2024年3月31日現在のもの

阪神・淡路大震災と東日本大震災、2つの災害派遣に従事して



私の初めての災害派遣は阪神・淡路大震災であり、当時3等陸曹の班長として人命救助に従事し、自衛官として初めて国民のお役に立てていることを実感しました。東日本大震災では普通科連隊第3科運用訓練幹部として人命救助・行方不明者の捜索に従事し、阪神・淡路大震災以来の教訓を活かして組織的に活動し、自衛隊にしかできない過酷な任務を遂行できました。2つの災害派遣に従事して、我々が活躍するときは国民の苦難のときだということを感じました。自衛隊が高い評価を得る現在ですが、引き続き謙虚に訓練を積み上げ、いついかなる任務にも即応できるよう準備を整えたいと思います。



3等陸佐 井久保 雅徳

- ① 中部方面混成団第4陸曹教育隊 (大津駐屯地)
- ② 普通科

弾道ミサイル防衛においては、海自だけでなく、陸自や空自と共に統合任務部隊として任務を遂行します。イージス艦は、わが国領域への弾道ミサイル落下の可能性がある場合は、速やかに搭載するミサイルを発射しこれを迎撃します。



護衛艦「あたご」のSPYレーダーと筆者
いちのみや としあき
1等海曹 一ノ宮 敏明
① 護衛艦「あたご」(舞鶴)
② 射管員

射管員は、イージス艦の主たるセンサーであるSPYレーダーの操作や整備を行います。機器の状態は任務遂行に直結するため、常に全能発揮に努めます。海上ということもあり、我々の任務は国民の皆様の前に出ることはありませんが、差し迫った脅威を早期かつ確実に排除することこそが、我々の任務であると考えています。

弾道ミサイル防衛における私の任務



整備作業中の様子(筆者は後列左)



在イスラエル国 邦人等輸送任務

日本到着後の見送り(筆者は中央)

人等の皆様を見送った際、ほっとしたとともに、自衛官として大きな役目を果たせたことに誇りを感じました。この経験を後輩たちに確実に繋いでいき、自分自身もさらに成長して自衛隊の任務を後方から支え続けていきたいと思っています。

私は日頃、国防上必要な装備品の取得や修理役務に関する契約業務を行っています。2023年11月、イスラエルから日本への邦人等の輸送任務に従事しました。10月に情勢悪化の報道を目にしたときから、すぐにでも現地に駆けつきたいとの思いがあったため、派遣を命ぜられた際は自信とやる気がみなぎり、特に、女性自衛官として女性や子どもたちを安心させたいとの思いで現地に向かいました。

現地では空港ターミナルから輸送機までの搭乗の支援を行いました。日本に到着し邦



機内において対応する筆者

- いのうえ みずき
空士長 井上 瑞稀
① 第4補給処調達部 (入間基地)
② 調達

◆ 自衛官を志して 初志貫徹



戦車長としての指揮(筆者は左上)

自衛隊の存在を知る大きなきっかけは「東日本大震災」です。当時、小学5年生であった私は被災地で住民の方々を救助する姿、避難先で野外炊事や入浴支援を行う姿を見て「カッコいい」、「私も必要とされる人になりたい」と感じ、防衛大学校に入校しました。

現在は、戦車小隊長として国防という使命を果たすために操縦訓練、射撃訓練、冬季戦技訓練などを計画し、部隊を強くすべく隊員とともに奮闘しています。戦車の「カッコよさ」に魅了されながら、命を預け合う仲間と共に訓練に励み、充実した日々を送っています。

今後の抱負は「隊員に必要とされる指揮官になる。」です。

初めに抱いた志を最後まで。



冬季戦技訓練(スキー)

なかがわ なつき

3等陸尉 **中川 夏希**

- ① 第11戦車隊(北恵庭駐屯地)
- ② 機甲科

私は、国民と国のために奉仕する仕事がしたいと思い、憧れていた祖父が海上自衛官だったこともあり海自に入隊しました。現在は鹿屋航空基地の第1整備補給隊で勤務しています。業務内容は主に、P-1哨戒機の電子機器の搭載・取り外し、機器に不具合が生じた際の復旧作業、手先信号を使った航空機誘導などです。



航空機の誘導を行う筆者

たけいち こうだい

1等海士 **武市 昂大**

- ① 第1航空群 第1整備補給隊(鹿屋航空基地)
- ② 航空電子整備要員(航空士)

電子機器は哨戒機の活動において必要不可欠なものであり、機器の状態が任務達成の可否に大きく影響するので、整備の際は配線などに細心の注意を払い、整備後のチェックも必ず行います。そのため、不具合無しで帰ってきた航空機を見ると、私たちも任務達成に貢献できたという思いで、達成感と職務に対する誇りが湧いてきます。

これからも、国民の皆様と国のために誠心誠意、職務に邁進していきます。



任務達成を目指して

交換する電子機器の搭載作業を行う筆者

◆ 入隊10年 私は今 10年間の感謝



器材整備中の筆者

入隊10年、私は今、育兒にもやる気が湧き、仕事にも身が入り、夫婦で充実した日々を送っています。今後も、国民のため家族のため、自分らしい自衛官として任務に邁進していきます。

私は、東日本大震災で活動している自衛官に感銘を受け入隊しました。地上無線整備員として多くの現場で活躍し、貴重な経験ができた。これまで関わった上司と仲間には非常に感謝しています。現在は、高射部隊の無線器材の整備をする傍ら、部隊の情報システムを管理しています。また、入隊時には考えられなかったのですが、今では家庭を持ち、妻の理解と支えを受けながら仕事ができ、妻には非常に感謝しています。そして、子宝にも恵まれ、わが子



情報システム関連業務中の筆者

しんざと としゆき

3等空曹 **新里 寿之**

- ① 南西高射群指揮所運用隊(那覇基地)
- ② 地上無線整備

◆ 様々な場所で日本を守ります

宇宙政策の推進のために



宇宙システム全体の機能保障強化のための机上演習の様子 (筆者は一番右)

私は技術幹部として、これまでは主に航空機などの研究開発業務に携わってきました。この度、内閣府に向向する機会を頂き、宇宙開発戦略推進事務局で勤務しています。当局は、宇宙政策の総合的かつ計画的な推進・調整を担っており、外交、情報、安全保障、経済、技術といった様々な観点を持って業務に取り組んでいます。昨今、通信・観測・測位などといった宇宙サービスは私たちの日常生活に定着しており、宇宙がより身近なものになってきている一方で、急増する人工衛星やスペースデブリに起因する宇宙の混雑化など、解決すべき課題も多くあります。当局での勤務を通じて、宇宙空間の安定的かつ持続的な利用の確保のために、少しでも役に立てるよう日々の業務に邁進していきます。

ほやかわ ゆきひろ
 1等空佐 早川 幸彦

- ① 内閣府
宇宙開発戦略推進事務局
(東京都/霞が関)
- ② 技術

退官後、PFI船舶「ナッチャンWorld」で勤務しています。



船内の様子
(令和6年能登半島地震派遣時)

私は、元海上自衛官で、学校教官や護衛艦の艦長として勤務していました。

2022年1月に定年退職し、現在はPFI船舶「ナッチャンWorld」の一等航海士として勤務しています。

また、2022年10月に予備自衛官に採用され、普段の勤務と予備自衛官としての訓練に努めています。

本船の主業務は自衛隊の輸送であり、私の職務内容は航海直のほか、船内業務全般の調整や監督、戦車などの車両積み下ろし作業の指揮監督など全体に及び、船長を補佐する立場です。これまでの業務で特に印象的なのは、令和6年能登半島地震における救援活動です。防衛省からの通知を受けて函館港を緊急出港し、石川県七尾港へ駆け付けました。現地での活動中、甚大な被害を受けた被災地のために派遣された方々の熱意溢れる姿に接し、さらに我々に対しても温かい感謝の言葉を頂いたことは、私の心に深く刻まれています。



七尾港内にて操船する筆者 (令和6年能登半島地震派遣時)

たかすがまさのぶ
 予備1等海佐 高須賀 政信

- ① 東洋マリンサービス株式会社

地域防災力の向上に向けて



令和5年度第2回県災害対策本部運営訓練での県知事への報告の様子
(筆者は右から2番目)

私は、陸自の施設科部隊での災害派遣や各司令部での勤務経験を活かし、地元である香川県の地域防災力の向上に貢献したいとの思いから、定年退官後は、県の防災指導監に再就職し、災害発生時における県災害対策本部での活動、県職員の教育訓練、防災講話、自衛隊との連絡調整を担任しています。

香川県では、特に、南海トラフ巨大地震や台風接近に伴う風水害などへの備えと対処が求められますが、他県と比較して災害の発生が少ないことから、自助・共助に資する県民の防災意識の向上と、公助に資する



満濃池森林公園第2回防災フェアで防災講話を行う様子 (筆者は右上)

あおい つねはる
 陸将補 (退官前) 青井 常治

- ① 香川県 危機管理総局危機管理課
- ② 防災指導監

する県・各市町・各防災関係機関などが連携した実践的な訓練や教訓の反映が極めて重要であり、災害から県民の皆様の命を救えるよう、力を尽くしていきたいと考えています。

GCAPの成功に向けて

グローバル戦闘航空プログラム (GCAP : Global Combat Air Programme) の政府間機関の本部が置かれることとなった英国で、準備チームの日本政府代表の技術者として、戦闘機の日英伊共同開発に携わっています。かつてない高い目標と規模の国際プロジェクトにおいて、複雑かつ高度な技術を統合していくプロセスは、高い専門知識と経験を求められますので、技官として培ったそれらを活か



エンジニア達との打合せの様子 (筆者は一番右)

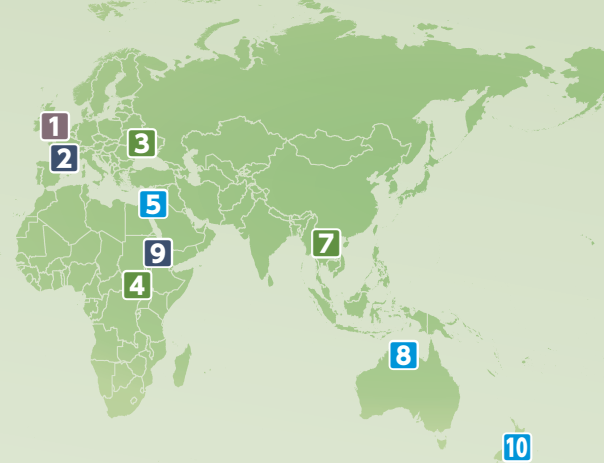
参事官 **土井 博史**

- ① 在英國日本大使館 (ロンドン)
- ② 外務事務官 (併防衛技官)

せ、誇りとやりがいを感じています。国によって異なる得意技術や文化、振る舞いの違いをプラスに融合させるため、認め合い、助け合うことがプロジェクトの成功の鍵だと信じ、プロジェクトを牽引していきます。



大使館前にて



10

フランス防衛駐在官の声

日仏の人口比は概ね2 : 1ですが、自衛隊と仏軍の人数はほぼ同規模です。フランスでは2001年の徴兵制停止後、志願制度を採用しつつ、2019年からは「普遍的な国家奉仕」によって15歳以上を対象に防衛分野を含む講習履修の義務を課すなど、人口減少社会における国防の維持に際してわが国とは異なるアプローチをとっており、多彩な国防政策に日々、



天皇記念日レセプションの様子 (2024年3月 / 筆者は中央)

3等海佐 **林 愛子**

- ① 在フランス日本国大使館 (パリ)
- ② 二等書記官兼防衛駐在官

気づきを得ています。任務においては、仏軍関係者や武官団、NATO関連の欧州軍人との交流によってインド太平洋地域への欧州諸国などのプレゼンス強化を働きかけています。また、市内の弓道部に所属し、稽古や関連行事を通して、日本のプレゼンス向上に邁進しています。

戦地の防衛駐在官として

日々、ロシアによる攻撃で多数の民間人が犠牲になっている報に触れます。ウクライナ国民の望む形での早期終結を期待しながら勤務しています。各種兵器を供与しているNATO諸国の武官からは、ロシアに対してウクライナとともに戦っているという連帯感を感じます。わが



兼轄国モルドバ国防相訪問 (筆者は右から2人目 / 一番左は同じくウクライナ防衛駐在官の田代1空佐)



献花台のある修道院前にて

1等陸佐 **出口 新**

- ① 在ウクライナ日本大使館 (キーウ)
- ② 情報科

国は、このような支援はできませんが、自衛隊中央病院への負傷兵の受入れや自衛隊車両の提供に対する多数の感謝の声を聞いています。今後も当地の様々な情報を適宜に収集報告する

ことで、わが国に可能な支援を実現し、平和達成への道筋に貢献できればと思います。

PKOを通じて日本への信頼をより強いものに

私は2024年1月から南スーダン共和国でUNMISS司令部航空運用幕僚として勤務しており、UNMISSの保有する航空機の日々飛行計画の作成・発出や飛行計画に基づく航空機の運航管理、安全管理や緊急飛行への対応を行っています。

UNMISSに勤務する多国籍のスタッフは、その多くが日本に対して好意的であり、これまで派遣された部隊、司令部要員をはじめとする日本人の築いてきた信頼を強く感じます。引き続き、南スーダンの平和と安定に貢献し、日本への信頼をより強いものにするよう尽力してまいります。



航空機の運航状況の確認 (筆者は右)



他国軍、現地スタッフとの交流 (筆者は一番左)

1等陸尉 **鈴木 若菜**

- ① UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) (南スーダン共和国 / ジュバ)
- ② 航空科

戦地における情報収集～イスラエル・パレスチナ情勢～

2023年10月7日に発生したハマスなどによるイスラエルに対する攻撃は、当日だけで1,200名を超える犠牲者を出したイスラエル建国以来最大の悲劇と言われています。その後の戦闘により、ガザ地区を中心にイスラエル・パレスチナ双方で多数の犠牲者が出ており、私も多くの悲しみに接してきました。こうした現地の最新情勢とともに、



ハマスが発射したロケットをアイアン・ドームで迎撃する様子 (筆者撮影)

無人アセットやAIなどの最新技術の活用で知られるイスラエル国防軍についての情報収集を行い、日本へ正確に報告するのが防衛駐在官の任務の一つです。在外邦人等輸送をはじめとした現地に居住される邦人等の安全確保といった直接的な支援とともに、こうした情報収集に励むことで、この中

1等空佐 **岡本 淳**

- ① 在イスラエル日本国大使館 (テルアビブ)
- ② 法務

東地域においてわが国防衛にしっかりと貢献していく考えです。

(注) 階級、勤務先は2024年3月31日現在のもの

世界で活躍する防衛省・自衛隊

6

練習艦隊勤務について

私は、初級幹部の教育訓練・各国との友好親善のため、約5か月間、海外をめぐる練習艦隊の司令部要員(通信員)として勤務をしており、通信員の業務と並行して、国内外におけるドローン撮影や寄港地での艦上レセプションの役員をしています。ドローンでは対外的に公開する動画を撮影し、レセプションにおいては国内外のお客様に対し、自衛隊の活動を理解していただけるよう取り組んでいます。練習艦隊司令部では、少ない人数で多くの業務をすることになりますが、他の部隊では経験できない貴重な経験を積める部隊となります。



操縦するドローンとの1コマ



艦上レセプションにて、ミス・コロンビアとの交流(筆者は右)

木下 貴雄
 2等海曹
 ① 練習艦隊司令部(呉)
 ② 通信員

これから自衛隊の活動を多くの人に理解していただけるように、職務に邁進していきたいと思います。

ラオス能力構築支援に参加して

私は、衛生教育班として、ラオス能力構築支援に参加しました。本事業は、ラオス軍による災害救助にかかる捜索・救助・衛生の各分野の能力向上を目的として実施され、本訓練に参加するラオス軍教官要員に対し、指導、助言を実施しました。言語、文化、習慣や宗教が異なる環境のなかで、任務を完遂し、2国間の信頼醸成、関係強化に寄与できたことを自衛官として誇りに思います。



現地で活動する様子(筆者は左から2番目)

国際情勢が不安定ななか、このような事業などを通じて、人と人との信頼関係を醸成していくことが、今後の国際社会での連携の足掛りになると強く感じました。



訓練修了式にて(筆者は右)

山下 真旺
 3等陸曹
 ① 第2普通科連隊(高田駐屯地)
 ② 衛生科

派遣海賊対処行動航空隊員として

私は、アフリカ東部のジブチ共和国において、第53次派遣海賊対処行動航空隊のP-3C哨戒機の操縦士として、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動や中東における情報収集活動に従事しています。飛行中は航行船舶を1隻ずつ確認しますが、異常が無いことを確認できるまでは緊張した状態が続くため、着陸後の疲労感が大きい反面、国内では得られない達成感と充実感があります。同地域に派遣されている各国軍と協力して行う任務は、国際的な活動に参加できているという実感もあり、とてもやりがいのある仕事だと思っています。自らの



共に勤務する隊員(筆者は中央)



任務飛行中の様子(筆者は右)

杉田 結光花
 2等海尉
 ① 第53次派遣海賊対処行動航空隊(ジブチ共和国)
 ② 固定翼操縦士

世界観を広げられるいい経験になっています。

米国、豪州への機動展開訓練に参加して

私は、F-35A戦闘機の後方支援情報システム(ALIS: Autonomic Logistics Information System)の維持管理要員として、豪州ティンダル基地へ展開しました。



航空機解析データを送信中の筆者

ティンダル基地では、空自のF-35A戦闘機の航空機解析データを三沢基地(青森県)へ送信する業務に従事しました。国外からのF-35戦闘機のデータ送信は空自として初めてのことであり、国外への展開訓練に貢献できたことで技術員としての誇りとやりがいを感じました。

前田 結
 空士長
 ① 第3航空団整備補給群装備隊(三沢基地)
 ② 電算機処理

今回、豪空軍の隊員との親睦を深めるなど、貴重な経験ができたことに感謝するとともに、国内外において活躍できる女性自衛官になれるよう、職務に邁進したいと思います。

ニュージーランド留学

私は、現在ニュージーランド国防大学にて指揮幕僚課程を履修しています。この課程の最大の特徴は、統合課程であることとクラスの半分近くが留学生であることです。そのため、ニュージーランドの多様性を受入れる国民性ともあまって、軍種と国を超えた活発な議論が



デボンポート海軍基地内のマオリの伝統的な集会所の前にて(筆者は前列左から5番目)

中根 晃平
 3等空佐
 ① ニュージーランド国防大学指揮幕僚課程
 ② 高射整備

日々行われています。実は、自衛隊からの留学は今回が初であり、多くの歓迎と期待の言葉を頂きました。卒業まで、他国の学生とできるだけ多く交流し、今後の勤務の糧にしたいと思っています。勤務を通じて多くの学びの道が開かれている自衛隊は、とても魅力的だと感じています。

◆ 防衛力の中核は自衛隊員です

人材確保の重要性

戦後最も厳しく複雑な安全保障環境のなか、防衛省・自衛隊が各種任務を適切に遂行し、わが国の防衛力を持続的に発揮するためには、優秀な人材を安定的に確保しなければなりません。

少子化や労働人口の減少により、わが国が深刻な人手不足社会を迎えるなか、自衛官の募集を取り巻く環境も厳しくなっていますが、処遇の向上や生活・勤務環境の改善を含めた勤務の魅力向上に取り組むことで人材を確保し、人的基盤の強化を進めていきます。

人的基盤強化施策の例

厳しい任務に従事する隊員の処遇の向上

厳しい任務に従事する隊員に対し、勤務の特殊性を踏まえた処遇の向上に取り組んでいます。

護衛艦、潜水艦などの乗組員に支給する乗組手当の引上げ

支給対象	現行	2024年度～
護衛艦など	現号俸×33%	現号俸×43%
潜水艦	現号俸×45.5%	現号俸×55.5%



レーダーサイトなどで勤務する隊員への対空警戒対処等手当の支給(日額860円)



水陸機動団で勤務する隊員に支給する特殊作戦隊員手当の引上げ

支給対象	現行	2024年度～
水陸両用特技保有隊員	現号俸×12.375%	現号俸×25%
洋上活動特技保有隊員	現号俸×6.875%	現号俸×20%



艦艇の通信環境改善

艦艇のような特殊な環境であっても、隊員個人の携帯電話が利用できる通信環境整備に取り組み、隊員が働きやすい環境に改善しています。



携帯電話で番組などを視聴する隊員



試験運用として練習艦「かしま」、「しまかぜ」に「スターリンク」のシステムを搭載

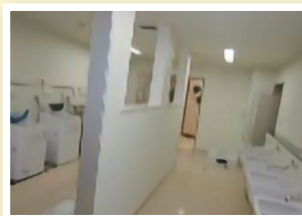
生活・勤務環境の改善・魅力化

隊舎・庁舎の建替え・改修など

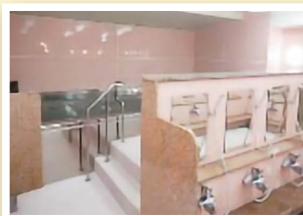
全国の駐屯地・基地の隊舎、庁舎の建替え・改修などを集中的かつ効率的に進めるとともに、隊員が快適に生活・勤務できる環境を整備しています。



改善の例



洗濯機増設



シャワー増設



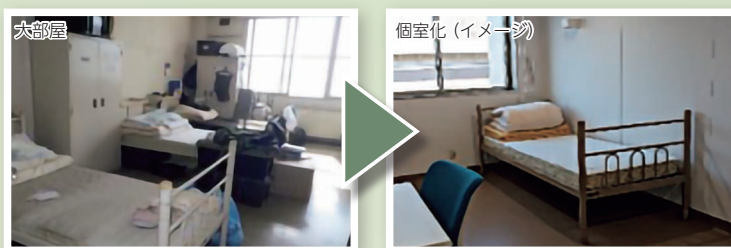
トイレ増設



空調の整備

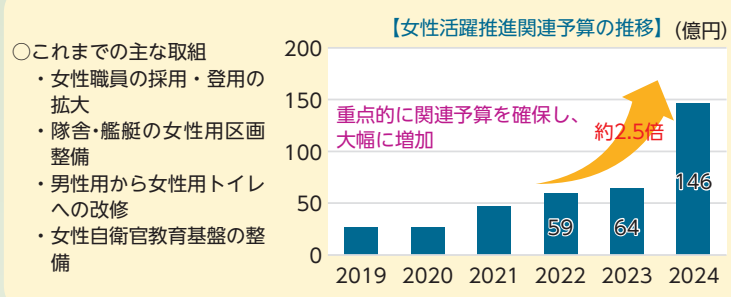
プライバシー確保のための隊舎居室の個室化

2024年度から設計する生活隊舎の居室は、原則個室として順次整備を進めるほか、既存隊舎の居室については、間仕切りなどでプライバシーの確保を図ります。(教育部隊を除く)



女性活躍推進

自衛官として活躍する女性は、約2万人（2024年3月末時点。全自衛官の8.9%）と年々増加しています。2030年度までに全自衛官に占める女性の割合を12%以上とすることとしており、こうした女性自衛官の活躍に欠かせない教育・生活・勤務環境の基盤整備を推進しています。



ハラスメント防止対策

組織風土の改革、ハラスメント教育の見直し、リーダーシップの向上、部外専門家による指導能力向上プログラムの拡充などにより、ハラスメントを一切許容しない環境を構築します。

部外人材も含めた多様な人材の確保

2024年度に新設する任期付自衛官制度を活用した民間人材の採用や、キャリア採用幹部として専門的技術を有する者を中途採用する取組に加え、定年年齢の引き上げや再任用などを通じて、経験豊富な人材の活躍を推進するなど、多様な人材の確保に取り組んでいます。

☐ 参照 IV部2章(防衛力の中核である自衛隊員の能力を発揮するための基盤の強化)



資料：自衛官募集ホームページ

URL：<https://www.mod.go.jp/gsd/f/jieikanbosyu/>

◆ 自衛隊の仕事図鑑



あなたにも見こがる！
自衛官適職診断



陸上自衛隊の職種一覧



普通科

地上戦闘の骨幹部隊として、機動力、火力、近接戦闘能力を有し、作戦戦闘に決着をつける重要な役割を果たします。



特科(高射特科)

対空戦闘部隊として侵攻する航空機を要撃するとともに、広範囲にわたり迅速かつ組織的な対空情報活動をを行います。



施設科

戦闘部隊を支援するため、各種施設器材をもって障害の構成・処理、陣地の構築、渡河などの作業を行うとともに、施設器材の整備などを行います。



機甲科

戦車部隊、機動戦闘車部隊、水陸両用車部隊および偵察部隊があり、戦車などの正確な火力、優れた機動力および装甲防護力により、敵を圧倒撃破するとともに迅速に機動します。



情報科

情報に関する専門技術や知識をもって、情報資料の収集・処理および地図・航空写真の配布を行い、各部隊を支援します。



システム通信科

各種通信電子器材をもって部隊間の指揮連絡のための通信確保、電子戦の主要な部門を担当するとともに、写真・映像の撮影処理などを行います。



特科(野戦特科)

火力戦闘部隊として大量の火力を随時随所に集中して広域な地域を制圧します。



航空科

各種ヘリコプターなどをもってヘリ火力戦闘、航空偵察、部隊の空中機動、物資の輸送、指揮連絡などを実施して、広く地上部隊を支援します。



武器科

火器、車両、誘導武器、弾薬の補給・整備、不発弾の処理などを行います。



海上自衛隊の職域一覧



射撃

護衛艦などにおいて、砲、ミサイルを操作し、各種目標に対する攻撃を実施します。また弾火薬などの取扱を実施します。



気象・海洋

気象・海洋観測、天気図類の作成、気象・海洋関係の情報の伝達に関する業務を行います。



飛行

P-3C/P-1哨戒機、US-2救難飛行艇、SH-60J/K/L哨戒ヘリコプターなどの搭乗員として飛行任務を実施します。



通信

陸上基地、艦艇および航空機などの通信、暗号の作成および翻訳、通信機材・暗号器材および関連機材の操作整備を行います。



航海・船務

航海は、艦艇の艦橋において航海に関する業務を実施します。船務は、レーダー・電波探知機などを活用し、戦術活動を実施します。



機関

エンジン（ガスタービン、ディーゼルなど）発動機などの運転、整備および火災、浸水対処などを業務とします。



水雷

護衛艦、潜水艦で魚雷などの水中武器、ソナーなどの水中捜索機器を操作し、潜水艦の捜索、攻撃および器材の整備を行います。



給養

艦艇および陸上部隊において、隊員に対する給食業務を実施します。



航空機整備

航空機の機体、エンジンおよび計器ならびにこれらを維持するための器材などの整備、修理、補給などに関する業務を行います。



航空自衛隊の職域一覧



操縦

戦闘機、輸送機、偵察機および政府専用機などを操縦し、防空、航空偵察、航空輸送および航空救難などを行います。



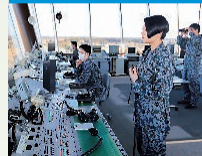
高射

侵攻してくる弾道ミサイルや航空機、巡航ミサイルを撃破するため、ペトリオットミサイルシステムの操作および器材の整備を行います。



情報通信

情報通信器材を操作し、器材の維持管理などを行います。



航空管制

航空自衛隊の飛行場（共用飛行場を含む）における航空交通管制業務を行います。



電算機処理

電子計算機および関連機材の操作やプログラムの作成、電子計算機システムの管理を行います。



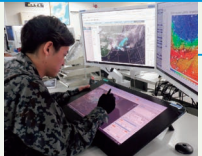
武器弾薬

航空機に搭載される武器弾薬などの補給、管理、整備を行います。



兵器管制

日本の領空を常時監視し、接近または侵入してくる航空機を早期に発見・識別し、必要に応じて戦闘機の誘導を行います。



気象

航空機の離着陸および飛行安全確保のため、気象観測・予報を行い、各種気象情報を全国の部隊に通報したり、天気図の作成を行います。



航空機整備

航空機のエンジンや搭載する電子機器類、レーダーなどの整備および航空機の定期整備を行います。

自衛隊はいろいろな職種の自衛官と、防衛事務官・防衛技官などによって成り立っています。陸上、海上、航空自衛隊にはきっとみなさんも興味を持つ様々な職種・職域があります。ここではその一部を紹介いたします。まずは「[自衛官適職診断](#)」から自分に合った職種・職域と見比べてみてください。

自衛隊の仕事が
よくわかる！

自衛官募集
ホームページ



次頁の二次元コードで
動画もチェック！



防衛事務官・防衛技官
などの採用はこちら

陸上自衛隊HP <https://www.mod.go.jp/g sdf/>

需品科

糧食・燃料・需品器材や被服の補給、整備および回収、給水、入浴洗濯などを行います。

警務科

警護、道路の交通統制、隊員の規律違反の防止、犯罪捜査など部内秩序の維持に寄与します。

陸上自衛隊の職種詳細は
こちらからご覧ください



輸送科

大型車両をもって部隊、戦車、重火器、各種補給品を輸送するとともに、輸送の統制、ターミナル業務、道路交通規制などを行います。

会計科

隊員の給与の支払いや、部隊の必要とする物資の調達などの会計業務を行います。

音楽科

隊員の士気を高揚するための演奏や広報活動に関する演奏を行います。

化学科

各種化学器材をもって放射性物質などで汚染された地域を偵察し、汚染された人員・装備品などの除染を行います。

衛生科

患者の治療や医療施設への後送、部隊の健康管理、防疫および衛生器材の補給・整備などを行います。

海上自衛隊HP <https://www.mod.go.jp/ msdf/>

経理・補給

給与・旅費などの計算、物品の調達、部隊の任務を遂行するために必要な装備品などを準備し、供給する業務を実施します。

情報

情報資料の収集、処理および情報の配布、秘密保全などを業務とします。

海上自衛隊の職域詳細は
こちらからご覧ください



航空管制

飛行場およびその周辺を飛行する航空機に対する航空交通管制業務や艦艇において航空機に必要な情報を提供する業務を行います。

地上救難

海上自衛隊の飛行場、また護衛艦に搭載する航空機で発生した火災の対処、搭乗員の救助作業などを行います。

音楽

音楽演奏を通じて隊員の士気を高揚します。また、広報活動に関する業務を行います。

施設

固有財産についての管理、運用、施設器材・施設車両を用いての建設、道路などの工事および器材の設備を行います。

衛生

病院における医療および医務室における健康管理や身体検査を実施するとともに、潜水に関する調査・研究を業務とします。

機雷掃海・潜水

掃海艦艇などで掃海具などを操作し、機雷の処分などを行います。また、潜水により浅海域における機雷・不発弾の処分などを行います。

航空自衛隊HP <https://www.mod.go.jp/ asdf/>

施設

基地内施設の維持管理（土木・建築・電気など）および航空機事故や建物火災など非常時の消火、人命救助などを行います。

警備

基地内巡察などを行い、基地の施設や物品の警戒などを行うほか、基地内・基地出入者の監視などを行います。

航空自衛隊の職域詳細は
こちらからご覧ください



衛生

隊員の健康診断および各種身体検査のほか、医療、環境衛生、食品衛生検査を行います。

音楽

航空自衛隊には5つの音楽隊があり、国の行事や自衛隊の公式行事の時に演奏を行います。

会計

隊員の給与・旅費の支払いや、部隊などの任務遂行に必要な物品などの調達を行います。

補給

航空自衛隊で使用する物品の需給統制、在庫管理、取得出納、保管などを行います。

輸送

航空自衛隊で装備・使用されている車両で、人や貨物を輸送したり、航空機へ貨物を搭載したりする業務を行います。

宇宙

防衛省・自衛隊の多様な任務に重要な宇宙空間の安定的利用のため、宇宙領域専門部隊において、国内関係機関および米軍と連携して、宇宙状況監視などの業務を行います。

◆ 理想の未来を実現する多種多様なコース

コース	特徴	対象年齢
 <p>COURSE 01 陸上自衛隊 高等工科学校生徒</p> <p>二次元コードで 動画もチェック!</p> 	<p>高機能化・システム化された装備品を運用する陸上自衛官となる者を養成するための学校です。国際社会においても自信をもって対応できる自衛官を育てます。</p>	<p>17歳未満の男子 中卒(見込)を含む</p>
 <p>COURSE 02 自衛官候補生</p> 	<p>自衛官となるために必要な基礎的教育訓練を経て、任用期間が定められた「任期制自衛官」に任官します。様々な訓練や職務を通じた技術の習得、任期満了後の再就職に向けた資格の取得など、希望に合った将来設計が描けます。</p>	<p>18歳以上 33歳未満 32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者</p>
 <p>COURSE 03 一般曹候補生</p> 	<p>部隊の基幹隊員である陸・海・空自衛官を養成する制度です。入隊後、教育課程や部隊勤務で知識や経験を積み、それぞれの職域のプロとして活躍します。自衛官の基礎知識はもちろん専門的な技能まで、じっくりと着実に身に付けることができます。</p>	<p>18歳以上 33歳未満 32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者</p>
 <p>COURSE 04 航空学生</p>  	<p>海自または空自のパイロットなどを養成します。団体生活を送りながら各種訓練を受け、戦闘機、哨戒機、輸送機、ヘリコプターのパイロットなどに最年少でなることができます。</p>	<p>18歳以上 24歳未満 海上自衛隊航空学生は18歳以上23歳未満</p>
 <p>COURSE 05 防衛大学校学生</p> 	<p>将来、各自衛隊の幹部自衛官となる者を4年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。広い視野、科学的な思考、豊かな人間性を持ち、想像力と活力に溢れる幹部自衛官となるため、知育以外に徳育と体育を重視しています。</p>	<p>18歳以上 21歳未満</p>
 <p>COURSE 06 防衛医科大学校 医学科学生</p> 	<p>将来、医師である幹部自衛官となる者を6年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。医師としての知識や技能のほかに、生命の尊厳への理解やあらゆる任務を遂行できる強靱な体力も養います。</p>	<p>18歳以上 21歳未満</p>
 <p>COURSE 07 防衛医科大学校 看護学科学生 (自衛官候補看護学生)</p> 	<p>将来、看護師・保健師である幹部自衛官となる者を4年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。看護専門職者としての優れた教養・知識・技能の実践を通じて、防衛省・自衛隊の国内外における活動に貢献できる人材を育成します。</p>	<p>18歳以上 21歳未満</p>
 <p>COURSE 08 一般幹部候補生</p> 	<p>防衛大学校卒業者とともに陸・海・空自衛隊それぞれの幹部候補生学校において、自衛隊組織の骨幹である幹部自衛官として必要な知識と技能を学びながら、その資質を養います。</p>	<p>26歳未満 大学院卒は28歳未満</p>
 <p>COURSE 09 自衛隊奨学生 (注2)</p> 	<p>自衛隊の装備品の研究開発分野などで活躍する人材を、大学や高専の在学学生などから選考により採用し、学資金を貸与して修学を助成、卒業後は所定の手続きにより、一般幹部候補生として採用されます。</p>	<p>25歳未満 大学卒業時点で26歳未満 修了時点で28歳未満</p>
 <p>COURSE 10 予備自衛官補</p> 	<p>募集のHPもチェック!</p> <p>社会人や学生といった自衛官未経験者であっても「予備自衛官補」として採用後、所定の教育訓練を経て「予備自衛官」に任命され、各種事態において自衛官として社会に貢献できます。「一般」と「技能」(語学、医療など)のコースがあります。</p>	<p>18歳以上 52歳未満 技能公募はこれに限らず</p>

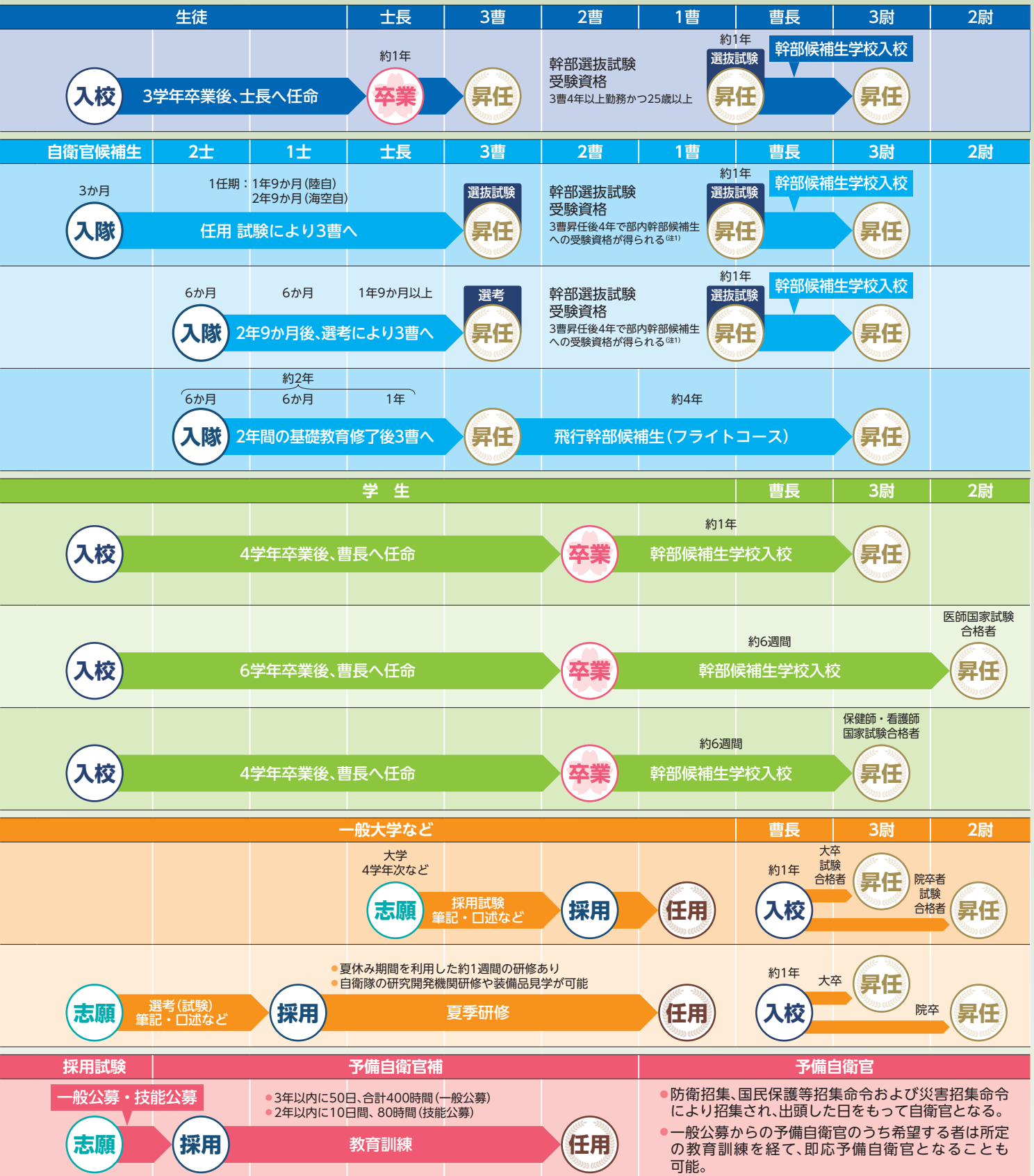
自衛官になるといっても、その進路は多種多様。

「なりたい自分になる」ために、自分の適性や希望に合うものを探してみましょう。

また、防衛省・自衛隊では、多くの防衛事務官や防衛技官なども活躍しています。



防衛事務官・防衛技官
などの採用はこちら



(注) 1 大卒者については、定める要件を満たす場合、3曹昇任後1年で幹部候補生への受験資格が得られます。

(注) 2 2024年度から貸与の対象となる教育機関が拡大されます。最新の情報はHPなどでご確認ください。